

◆ Newly Born! —専攻制からコース制へ— ◆

英語・英語圏文化コース 教員
前田 隆子

カリタス女子短期大学・言語文化学科は、今までの3専攻制(英語・英語圏文化専攻、仏語・仏語圏文化専攻、コミュニケーション文化専攻)から2009年4月に4コース制(英語・英語圏文化コース、仏語・仏語圏文化コース、現代コミュニケーションコース、社会文化システムコース)に生まれ変わりました。一番の大きな変化は、各コースの垣根をこえて科目を選択できるようになったことです。学生個々人の興味・関心や将来の目標に応じて、他コースの科目が履修しやすくなったので、幅広い教養を身につけることが出来ます。もちろん、今まで同様、生きた外国語運用能力の養成、またそのために不可欠な日本語力を総合的に磨くことにも力を入れています。

さて、コース制になって半年が経ちました。6月には、毎年恒例のBritish Hills(福島県)での体験学習に、他コースの学生も数名参加しました。今年の参加者はやる気がみなぎっていて、日本人同士でも出来るだけ英語で会話しようと試みる学生も多かったのが印象的です。1日目のCookingやAromatherapyの実践的で楽しい授業や、Refectory(中世以来の僧院や大学で修業生たちが一同に会して食事を取る大広間)での本格的なディナー、そして2日目のグループで協力し合って行われたプレゼンテーション(前日の授業に関する報告)と、最後に全員で歌った英語の歌。どれもすばらしい思い出です。

夏休み前には、約1年間の留学生生活を終えた2年生たちが一回りも二回りも成長して帰国しました。今回は、アメリカのFelician CollegeとイギリスのChichester Collegeに留学した学生にそれぞれ報告記事を書いてもらいましたので、是非お読みください。また、この夏には、3名の学生が派遣奨学生として米国・英国に元気に旅立ちました。

学科のコース制への移行に伴い、このKaleidoscopeもリニューアルを図ろうと思います。今後は年2回のペースで発行し、内容もカリタスのユニークな英語の授業紹介や、在学生・卒業生の活躍ぶりの紹介等、盛り沢山でいこうと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



British Hills での Dinner



British Hills 集合写真

◆ 留学生の体験レポート ◆

英語・英語圏文化コース 教員
北川 宣子

カリタス女子短期大学の留学制度は留学を夢見て入学する学生にとって、大変魅力あるプログラムのようなです。本学が留学費用を補助する派遣奨学生制度に加え、イギリスの Chichester College そしてアメリカの Felician College からは留学先の各大学が1年間の授業料を免除する大学間協定派遣奨学生制度があり、毎年、複数の学生が在学中に1年間の留学を体験し、大きく成長して帰ってきます。

今年は特に多く、私費で留学した学生を含め、8名の学生がイギリス、アメリカ、カナダに留学して夏に帰国しました。今回の体験レポートはその中でも、現地の大学生と共に大学正規の授業を受けてきた学生と、キャリアに結びつくコースで勉強してきた学生にその体験を紹介してもらいました。

英語・英語圏文化専攻2年
十楚 麻子



Tourism Course のチューターと共に

私は大学間協定の派遣奨学生として、2008年8月から1年間イギリスの Chichester College に留学しました。以前から、航空関係の仕事につきたいと思い、中でもキャビンアテンダントになりたいと思っていた私は、Chichester College では旅行関連の資格を取るための勉強ができると聞き、“Travel and Tourism”というコースで勉強しました。1週間のうち、月曜と火曜は留学生が勉強する英語クラスで、そして水曜から金曜は Tourism の勉強をしました。Tourism コースを取っている学生のほとんどがイギリス人で、留学生は私を含めて5人しかいませんでした。内容も summer school で受けるものとは違いレベルも高く、最初はクラスメイトともあまり溶け込むこともできず、毎日出される課題やテストにもとても苦労しました。レポート提出や授業の復習などには多くの時間を費やしたと思います。“cabin crew”の授業では cabin attendant の制服を着て実習をしました。大学の敷地内にある飛行機に乗り、避難訓練や実際に子供たちを乗せてサービスの練習などもしました。1月には Tourism コースと Catering コース、Beauty コースが合同でフランスへ旅行に行きました。3泊4日でしたが、クラスメイトや他のコースの学生たちとも仲良くなり、とても楽しい思い出となりました。

月日が経つにつれ、出されるたくさんの課題にもだんだんと慣れていき、授業にも追いついていけるようになり、気遣ってくださる先生にもとてもお世話になりました。何度か担任の先生とは意見の食い違いがありましたが、自分が主張したいことは諦めずに伝えることが大事だということ学びました。また、世界中から来ている学生と多く出会え、友人になれたことは私の一生の宝でもあります。Chichester で楽しく過ごした貴重な日々や、Tourism で学んだことを是非、将来の夢につなげたいと思います。



ブロードウェイで友人と共に

私は、約1年間アメリカのニュージャージー州にある Felician College に留学させていただきました。留学後1ヶ月間は留学生のための授業(ESL)を受け、9月から5月まではアメリカ人の学生と一緒にカレッジの授業を受けました。ESL のクラスでは、様々な国から来ている人たちと友達になることができ、文化の違いや英語以外の言語にも触れることができました。カレッジの授業では、単位を取るための努力はもちろん、クラスメイトの発言に耳を傾け“生きた”英単語の使い方などを必死に学びました。1年近くの滞在で、学んだことは計り知れません。楽しいことだけでなく苦しい、悲しいこともたくさん経験しました。アメリカ人の友達ができ仲良くなればなるほど、文化の違いや考え方の違いから悩み、日本にいる友達・家族が恋しくなることも沢山ありました。しかし、異文化を乗り越え、得たものは私の“宝物”となりました。この貴重な機会を与えていただいたこと、この1年間を支えてくださった方々に心の底から感謝しています。1年を通して学んだことを忘れずに日々成長していきたいと思えます。

いや英語以外の言語にも触れることができました。カレッジの授業では、単位を取るための努力はもちろん、クラスメイトの発言に耳を傾け“生きた”英単語の使い方などを必死に学びました。1年近くの滞在で、学んだことは計り知れません。楽しいことだけでなく苦しい、悲しいこともたくさん経験しました。アメリカ人の友達ができ仲良くなればなるほど、文化の違いや考え方の違いから悩み、日本にいる友達・家族が恋しくなることも沢山ありました。しかし、異文化を乗り越え、得たものは私の“宝物”となりました。この貴重な機会を与えていただいたこと、この1年間を支えてくださった方々に心の底から感謝しています。1年を通して学んだことを忘れずに日々成長していきたいと思えます。

◆ カリタスの英語 ◆

このコーナーでは、カリタスの英語・英語圏文化コースを代表する英語の授業を紹介します。第1回は、本コースの要「Oral English」をご紹介します。

英語・英語圏文化コース 教員
Patricia 保田



保田先生の Oral English

One of the most popular classes at Caritas Junior College is the Oral English class. We asked Caritas students for some information about this class.

Q: How many students are there in the class?

A: It depends on the class and year. The number is usually around 12 or 15 on average.

Q: How many classes are there per week?

A: The class is 90 minutes and is held twice a week.

Q: Do you have native speakers and what countries are they from?

A: Yes, all Oral English classes are taught by native speakers. At present, we have teachers from Australia, Canada, the UK and the USA.

Q: What kind of tests do you have?

A: It depends on the teacher but all classes have a listening test then some have either a written or spoken test.

Q: How much can my ToEIC score improve in two years at Caritas?

A: Again, it depends. Students who really study hard can more than double their scores even without going abroad.

Q: What is the biggest difference between college and high school oral classes?

A: Student Ayaka: Caritas classes are smaller and students are more active than in high school.

Student Shoko: In high school, we had a Japanese teacher and a native speaker teaching as a team.

Student Ayana: In high school, we had an ALT but the visits were not frequent and the teacher spoke too fast.



ウォーカー先生の Oral English

Thank you for your comments, students. We hope you continue to enjoy Oral English!

◆ 追悼 マイケル・ジャクソン ◆

英語・英語圏文化コース 教員
北脇 実千代



アルバム『スリラー』(1982)

2009年6月25日、マイケル・ジャクソンが50年の生涯を閉じました。音楽業界においてマイケルが成し遂げた業績は、すでにあらゆるところで報道されています。例えば、1982年に発売されたアルバム『スリラー』は、世界中で1億400万枚売れ、この記録ははまだ破られていません。その功績から「キング・オブ・ポップ」と称されたマイケルは、世界中の人々にとってのスターでした。ここでは、人種という側面に焦点を当てて、マイケルの業績を振り返ってみたいと思います。

1958年8月29日にアメリカのインディアナ州で生まれたマイケルが、音楽にかかわるようになったのは、兄弟で構成されたジャクソン・ファイブとしての活動がきっかけでした。ダイアナ・ロスら黒人歌手を多数送り出してきたモータウンレコードから発売された「ABC」や「アイル・ビー・ゼア」などが、全米ヒットチャート1位を獲得し、リードボー

カルをつとめていた当時11歳のマイケルは一躍有名になっていきます。公民権運動後で人種間の融和ムードが高まっていたこともあり、彼らが歌う曲は、人種の壁を越えて黒人だけでなく白人をも魅了することになりました。

マイケルの音楽は、ソロ活動でも、あらゆる人々に受け入れられていきました。白人視聴者が多かったミュージックビデオ専門のテレビ番組(MTV)で注目されるようになったのもその一例として挙げられます。マイケルは、ミュージックビデオをミニ映画のように製作し、プロモーション活動に積極的に利用した先駆者であり、これまで黒人の歌手を扱うことのなかったその番組にも黒人として初めて登場することになりました。このことによって、黒人のアーティストは黒人のファンが中心となって支えるというそれまでの傾向が変わったといわれています。アメリカ社会全体、そして世界中で評価されていくマイケルは、黒人社会にとって誇るべき存在となっていました。

一方、マイケル・ジャクソンは、黒人社会において物議を醸し出す存在にもなっています。1990年代ごろからマイケルは、整形手術を重ね、肌の色も変わっていき、その外見が「黒人」ではなくなっていくためです。歴史的に黒人社会では、黒人として自らに誇りを持つとする考えと白人のようになろうとする考えが常に対立してきました。とくに外見に関しては、その対立も顕著で、黒人としての誇りを重視する人々にとっては、白人のように髪をストレートにしたり肌の色を白くしたりすることは非難すべき行為でした。そのような歴史的社会的背景がある中で、白人のような容姿に変えていくマイケルは、彼がどのように弁解しようとも受け入れがたい存在になっていったわけです。

マイケルの死後、黒人社会では白人からマイケルを取り戻そうという声が高まっているとの記事も見かけるようになりました。マイケルが変わっていったのは、白人社会に翻弄されたからだとする考えからでしょうか。私生活では数々のスキャンダルに見舞われ、とくに晩年はマイナスイメージを助長するニュースに事欠かなかったマイケルでしたが、ここにきて、再び彼の功績が見直されているといえます。

Kaleidoscope 第31号はいかがでしたか？ 皆さまのご意見・ご希望・ご質問など、お気づきの点を maeda@caritas.ac.jp までお寄せください。

2009年9月28日発行

発行責任者：前田 隆子

編集協力：東京工科大学

コンピュータサイエンス学部 千葉 要介

カリタス女子短期大学

Caritas Junior College

〒225-0011

横浜市青葉区あざみ野 2-29-1

Tel:045-901-5133

Fax:045-901-5066

URL: <http://www.caritas.ac.jp/english/>